

国際交流員の  
活動日誌

vol.65



「アイスクリームを求めて、私たちはみんな叫ぶ！」

We all scream for ice cream!

スピーカーから何かを鳴らしながら走っている車という、何を思い浮かべますか？日本だと、緊急車両、政治家や広告宣伝車を考える人が多いでしょうか。では、何かを鳴らしながら走っているから、音楽を鳴らしながら走っているに変わりましたら何を思い浮かべますか？日本で育った方であれば、焼き芋の移動販売を答える人が多いでしょうか。アメリカ人、カナダ人やヨーロッパのある国の人に聞くと「アイスクリームト

ラック」を答える人が多いと思います。名前のとおりアイスクリームを販売する車で、外で遊んでいる子どもたちが聞こえるように音楽を鳴らしながらゆっくり走っています。焼き芋の移動販売と違って演歌調ではなく、明るくて楽しい子ども向け音楽を鳴らしません。いつ現れるのか分からないのは魅力の一つです。その上に、アイスクリームトラックはお店であまり買えないアイス売っています。特に大人気のキャラクターを表すアイスが人気です。

毎年夏になると、アイスクリームトラックがいた懐かしい思い出がよみがえります。大人になった今でも、アイスクリームトラックの音を聞くと、外に走り出したいくなります。

(ララ)

地域の魅力  
ふる里再発見保原城から保原陣屋へ - 3 -  
～保原陣屋とは～

令和4年度第1回企画展

保原城から保原陣屋へ

8/21日まで延長して開催  
伊達市保原歴史文化資料館

会所記録(裏)

会所記録(表)

寛保2(1742)年に、白河藩主・松平定賢は11万石の所領を与えられ、この中に信達地方17カ村・2万石が含まれます。下保原村に藩の出先機関である「保原陣屋」が設置されます。その後、文政6(1823)年に松平定永が伊勢国桑名(三重県)へ入部し、白河には阿部正権が入部します。

陣屋の記録です。この記録を見ると、陣屋内には役人の住宅や米蔵などが設けられ、白河から派遣された家臣や、村の代表である村名主2人が常駐していたことが分かります。裏表紙(左上図)には、この記録を作成した2人の村名主の名が記載されています。

彼らが記録した文政6年は、特に忙しい年であったことが分かります。領主と陣屋役人の交代があり、新役人への諸引継や郡代・代官等の廻村もありました。このほか、建物内の家財がすべて記載されているなど、興味深い記録も見られます。

実は、発掘調査では保原陣屋に伴う出土品は少ない状況です。明治時代に入り、陣屋の機能が衰退する中で、陣屋内部の家財が散逸した可能性もあります。市内のどこかで、陣屋で使われた家財が見つかるかもしれません。